

パネリスト

**大澤 健（おおさわ けん）**

総務省 情報流通行政局 情報流通振興課長

2000年、東京大学経済学部卒業後、郵政省（現総務省）入省。総務省において、主に電気通信事業法や放送法など情報通信関連の制度の企画立案に従事。また、デジタル社会形成基本法の企画立案を含めデジタル庁創設に関与。在英大使館一等書記官、総務省国際放送推進室長、内閣官房情報通信技術(IT)総合戦略室企画官、デジタル庁参事官を経て、2023年9月から総務省情報流通振興課長に就任。インターネット上の違法有害情報対策、偽・誤情報対策など、デジタル空間における情報流通の健全性確保に関する施策の企画・立案・推進を担当。

パネリスト

**國領 二郎（こくりょう じろう）**

慶應義塾大学 総合政策学部 教授

1982年東京大学経済学部卒。日本電信電話公社入社。1992年ハーバード・ビジネス・スクール経営学博士。1993年慶應義塾大学大学院経営管理研究科助教授、2000年同教授。2003年同大学環境情報学部教授、2006年同大学総合政策学部教授（現在に至る）などを経て、2009年より2013年まで総合政策学部長。また、2005年から2009年までSFC研究所長、2013年より2021年5月まで慶應義塾常任理事を務める。

主な著書に「オープン・アーキテクチャ戦略」（ダイヤモンド社、1999）、「ソーシャルな資本主義」（日本経済新聞社、2013年）、「サイバー文明論 持ち寄り経済圏のガバナンス」（日経BP 日本経済新聞出版社、2022年）、「ソシオテクニカル経営 人に優しいDXを目指して」（日経BP 日本経済新聞出版、2022年）がある。

パネリスト

**安野 智子 (やすの さとこ)**

中央大学 文学部 教授

1970年生まれ。1993年お茶の水女子大学文教育学部卒業。
1997年東京大学人文社会系研究科博士課程単位取得退学。博士（社会心理学）。
香川大学経済学部助教授、中央大学文学部准教授を経て、2011年より現職。

【主要研究業績】

○書籍

安野智子（編著）(2016)『民意と社会(中央大学社会科学研究所研究叢書30)』中央大学出版部。

安野智子(2006)『重層的な世論形成過程：メディア・ネットワーク・公共性』東京大学出版会（日本社会心理学会出版賞）

○論文・分担執筆

安野智子(2018)「民主主義観と信頼の現在」（池田謙一編著『「日本人」は変化しているのか: 価値観・ソーシャルネットワーク・民主主義』、第8章所収）勁草書房。

安野智子(2015)「2013年参議院議員選挙における資産効果」『選挙研究』31(1) 84-101.

宮田加久子・安野智子・市川芳治(2014)「政治過程におけるオンラインニュースの効果：政治的知識に及ぼす直接的・間接的效果」『社会心理学研究』30(1):21-34.



山口 真一（やまぐち しんいち）

国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 准教授

1986年生まれ。博士（経済学・慶應義塾大学）。2020年より現職。専門は計量経済学、社会情報学、情報経済論。NHKや日本経済新聞をはじめとして、メディアにも多数出演・掲載。KDDI Foundation Award貢献賞、組織学会高宮賞、情報通信学会論文賞（2回）、社会情報学会論文奨励賞、電気通信普及財団賞、Web人賞、紀伊國屋じんぶん大賞を受賞。主な著作に『ソーシャルメディア解体全書』（勁草書房）、『正義を振りかざす「極端な人」の正体』（光文社）、『なぜ、それは儲かるのか』（草思社）、『炎上とクチコミの経済学』（朝日新聞出版）などがある。他に、早稲田大学ビジネススクール兼任講師、シエンプレ株式会社顧問、株式会社エコノミクスデザインシニアエコノミスト、日経新聞Think!エキスパート、日本リスクコミュニケーション協会理事、日本テレビ放送番組審議会委員などを務める。また、内閣府「AI戦略会議」を始めとし、総務省、厚生労働省、公正取引委員会などの様々な政府有識者会議委員や座長を務める。